

史料探訪

	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	滋賀県	滋賀県	三重県	長野県	富山県	群馬県	茨城県	宮城県	
	醍醐寺	醍醐寺	醍醐寺	徳禅寺	青蓮院門跡	京都大学附属図書館・総合博物館	滋賀大学経済学部附属史料館	近江八幡市・彦根市	津市・志摩市	上田市・長野市	宮崎文庫記念館	新田荘歴史資料館	水戸市立博物館	仙台市・登米市	探訪先
	醍醐寺文書の原本校正	醍醐寺所蔵史料の調査・撮影	醍醐寺文書の原本校正	徳禅寺所蔵史料の調査・撮影・原本校正	青蓮院門跡吉水蔵聖教調査撮影	京都大学附属図書館・総合博物館所蔵『薩戒記』の原本校正	滋賀大学経済学部附属史料館における大嶋神社・奥津嶋神社文書の調査・撮影	滋賀県下所在史料の調査・撮影	三重県下中近世史料調査	長野県下所在史料の調査・撮影	宮崎文庫記念館所蔵史料の調査・撮影	長楽寺聖教史料調査撮影	吉見文書の調査・撮影	宮城県下所在史料の調査・撮影	目的
	遠藤基郎・高橋慎一郎	谷昭佳・桑田恵里・小塩慶・海上貴彦・高橋慎一郎	小瀬玄士・高橋慎一郎	谷昭佳・桑田恵里・小瀬玄士	(第一回)菊地大樹・藤原重雄・小塩慶・林遼、(第二回)菊地大樹・藤原重雄・新井重行・小塩慶	遠藤珠紀	村井祐樹・谷昭佳・桑田恵里・井上聡	村井祐樹	山家浩樹・末柄豊・渡邊正男	畑山周平・谷本隆之・村井祐樹	末柄豊・田島公・畑山周平・村井祐樹・林晃弘	菊地大樹	堀川康史・木下竜馬	林遼・谷本隆之・村井祐樹	氏名
	古文書	古代・中世・古文書・技術	古文書	古文書・技術	古代・中世・古記録	古記録	中世・古記録・技術	中世	中世・特殊	中世	古代・中世・近世	古記録	古代・古文書	中世	関係部門
	91	91	91	90	90	90	90	90	88	88	87	87	87	87	頁
	高橋慎一郎	高橋慎一郎	高橋慎一郎	小瀬玄士	菊地大樹	遠藤珠紀	井上聡	村井祐樹	渡邊正男	村井祐樹	林晃弘	菊地大樹	木下竜馬	村井祐樹	代表者

31	大阪府	武田科学振興財団杏雨書庫	武田科学振興財団所蔵『実躬卿記』自筆本による原本校正	菊地大樹・遠藤珠紀	古記録	95	菊地大樹
30	奈良県	五條文化博物館	三箇家文書・大日寺旧蔵文書調査撮影	菊地大樹・木下竜馬	古文書・古記録	94	菊地大樹
29	奈良県	東大寺	東大寺文書の原本調査	遠藤基郎・木下竜馬・高橋慎一朗	古文書	94	遠藤基郎
28	奈良県	宮内庁正倉院事務所	正倉院文書調査	山口英男・稲田奈津子・新井重行・小塩慶	古代	94	稲田奈津子
27	奈良県	西大寺	真言律宗総本山西大寺所蔵史料の調査・原本校正	末柄豊・高橋慎一朗・西田友広・小瀬玄士	中世・古文書	94	小瀬玄士
26	奈良県	薬師寺	薬師寺所蔵史料の調査	海上貴彦・及川亘・菊地大樹・小瀬玄士・林晃弘・前川祐一郎	中世・近世・古文書・古記録	94	及川亘
25	奈良県	春日大社	春日大社所蔵史料の調査	遠藤基郎・藤原重雄	古代・古文書	93	藤原重雄
24	京都府	聖護院門跡	聖護院文書の調査撮影	木下竜馬・藤原重雄	古代・古文書	93	藤原重雄
23	京都府	京都国立博物館	東福寺栗棘庵所蔵「聖一国師印信」調査撮影	菊地大樹・高山さやか・桑田恵里	古記録・技術	93	菊地大樹
22	京都府	賀茂別雷神社	賀茂別雷神社文書の調査・撮影	石津裕之・遠藤珠紀・遠藤基郎・金子拓・高山さやか・谷本隆之	中世・近世・古文書・古記録・技術	92	金子拓
21	京都府	京都市歴史資料館	岩佐家文書の調査・撮影	金子拓・木下竜馬・谷本隆之	中世・古文書	92	金子拓
20	京都府	京都府立京都学・歴史館	東寺百合文書の原本調査	遠藤基郎・木下竜馬	古文書	92	木下竜馬
19	京都府	東山御文庫	京都御所東山御文庫の調査	末柄豊・渡邊正男・藤原重雄・新井重行・小塩慶・海上貴彦	古代・中世	92	新井重行
18	京都府	仁和寺	仁和寺所蔵史料（御経蔵）の調査・撮影	岡本真・須田牧子・林晃弘・林遼・藤原重雄・川本慎自	古代・中世・近世・特殊	91	川本慎自
17	京都府	公益財団法人陽明文庫	陽明文庫所蔵「近衛文書」の調査・撮影	松澤克行・荒木裕行・山本一夫	近世	91	松澤克行
16	京都府	公益財団法人陽明文庫	公益財団法人陽明文庫所蔵『平記』『後法興院記』の原本調査	尾上陽介・遠藤珠紀・井上聡	古記録	91	井上聡
15	京都府	京都大学文学研究科図書館	京都大学文学研究科図書館所蔵「明和四年東行之日記」の調査	松澤克行・荒木裕行	近世	91	荒木裕行

40	39	38	37	36	35	34	33	32
熊本県	長崎県	大分県	福岡県	高知県	香川県	山口県	岡山県・鳥取県	大阪府
熊本大学附属図書館	西山寺・長崎県対馬歴史研究センター	中津市歴史博物館	柳川市	高知県立歴史民俗資料館・高知県高知城歴史博物館	萩原寺	山口県文書館	岡山市・鳥取市	堺市・大阪市
公益財団法人永青文庫所蔵・熊本大学寄託「細川家史料」の調査・撮影	西山寺文書の調査・撮影	大分県中津市歴史博物館における中世史料の調査・撮影	福岡県柳川市・天叟寺所蔵史料の調査・撮影	高知県高知城歴史博物館および高知県立歴史民俗資料館における中世史料の調査・撮影	萩原寺所蔵地蔵院聖教および萩原寺文書の調査・撮影	山口県文書館所蔵毛利家文庫史料の調査・原本校正	岡山大学附属図書館池田家文庫および鳥取県立博物館所蔵史料の調査・撮影	堺市・大阪市所在史料の調査・撮影
立石了・林晃弘・山口和夫	岡本真・須田牧子・川本慎自	尾上陽介・井上聡	谷昭佳・桑田恵里・畑山周平	岡本真・井上聡	井上聡・遠藤珠紀・末柄豊・畑山周平・山口英男	小野将・立石了	杉本史子・箱石大・菊地智博	西田友広・小瀬玄士・村井祐樹
近世	中世・特殊	古記録	中世・技術	古記録・特殊	古代・中世・古記録	近世	近世	中世・古文書
101	100	99	99	97	97	97	95	95
林晃弘	川本慎自	井上聡	畑山周平	井上聡	末柄豊	立石了	菊地智博	村井祐樹

1 宮城県下所在史料の調査・撮影

二〇二三年一月一九～二〇日、宮城県仙台市および登米市に出張し、所
在中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

〔渋谷氏所蔵文書〕

〔大内文書〕登米市教育委員会所蔵

〔登米伊達文書〕登米懐古館所蔵

当日は、渋谷和邦氏・登米市歴史博物館小野寺智哉氏・山崎智子氏にはた
いへんお世話になった。記して謝意を表する。

（林遼・谷本隆之・村井祐樹）

2 吉見文書の調査・撮影

二〇二三年九月一日、水戸市立博物館を会場にお借りし、吉見文書（個
人蔵）の調査とデジタル撮影を行った。『茨城県史料 中世編Ⅱ』（一九七四）
には、本文書から中世文書三点（天文二年三月日大掾（？）清幹感状、（年
未詳）十一月二六日富田邦信書状、鹿島治時兵法伝書）が収録されている。
今回の調査では、上記中世文書三点のほか、文安元年八月一日に飯尾常房
が書写した御成敗式目古写本一本、また家伝の近世文書等を撮影した。今回
の調査にあたり、宮内教男（日立市郷土博物館）、藤井達也（水戸市立博物館）、
貫井裕恵（神奈川県立金沢文庫）、中根正人の諸氏からの多大なご協力・ご
教示に預かった。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（堀川康史・木下竜馬）

3 長楽寺聖教史料調査撮影

群馬県太田市新田荘歴史資料館に出張し、同市長楽寺所蔵聖教史料の調査
ならびに写真撮影を行った。同調査は、①二二年十一月一八・一九日、②二
四年二月六～七日の二回に分けて実施した。

なお、第一回については小山聡子氏（二松学舎大学）・具知會氏（東京大
学文学部特任研究員）、両回について藤井雅子氏（日本女子大学）のご協力
を得た。

（菊地大樹）

4 宮崎文庫記念館所蔵史料の調査・撮影

二〇二三年六月一日・二日、一〇月二七日、富山県黒部市の宮崎文庫記念
館に出張し、同館所蔵史料の調査・撮影を行った。本調査は共同利用・共同
研究拠点一般共同研究「富山県下（越中国）中近世文書の研究資源化」（研
究代表者・萩原大輔氏）研究グループと合同で実施したものである。調査に
あたっては館長飯村滋氏に大変お世話になった。また、富山市郷土博物館萩
原大輔氏にご仲介いただいた。記して謝意を表する。

撮影史料は左記の通り。番号は飯村滋編『宮崎家累代の古典籍 庫書筆覧』
（尊史庵宮崎文庫記念館、二〇一六年）による。

I—三	正源記	一巻
I—四	東寺録外目録	一冊
I—五	千手経述秘	二冊
I—六	舍利講式	一卷
I—七	不空絹索神变真言经卷第九	一冊
I—八	泥梨经	一冊
I—九	佛为黄竹園老婆羅門説覚经	一冊
I—一〇	後鳥羽天皇筆歌	一点
I—一一	後鳥羽天皇尊影	一点
I—一二	金胎両部御修法	一卷
I—一四	大唐当朝秘口伝	一冊
I—一六	四字抄	二冊
I—一八	後醍醐天皇筆歌	一点
I—二一	尊良親王歌切	一点
I—二二	二条為定歌	一点
I—二三		一点

I—二五	摂関家御教書	一通
I—二六	白表紙目録	一卷
I—二九	尊円法親王古歌	一点
I—三二	東要記抜書	一冊
I—三五	秘鈔卷第十六	一卷
I—三九	敦盛絵巻	二卷
I—四五	佐々成政知行宛行状	一通
I—四七	護良親王像	一点
I—四八	織田信良知行宛行状	一通
I—四九	土岐頼武知行宛行状写・木下秀吉書状写・織田信長書状写	一卷三通
I—五一	明智光秀・羽柴秀吉・滝川一益知行目録写	一通
I—五四	五密口訣	一冊
I—六六	足利義詮御判御教書	一通
I—六八	玄証本宮毘羅大將像	一点
II—二	前田利長書状	一通
II—三	直江兼統書状	一通
II—四	春玉秘抄	一卷
II—七	四季物語	一冊
II—一三	自讃歌	一冊
II—六五	関ヶ原陣之砌津之城松坂並湯田野合戦之事	一冊
II—九五	江戸献上使略記	一冊
II—一三三	嘉永七年甲寅地震雜記	一冊
II—一三六	多武峰大織冠尊像御破裂目録	一冊
II—一三七	弁頭密二教論	一冊
IV—三四	叙位記	一卷

(末柄豊・田島公・畑山周平・村井祐樹・林晃弘)

5 長野県下所在史料の調査・撮影

二〇二三年六月一四～一五日、長野県上田市および長野市に出張し、所在中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

- 〔願行寺文書〕
 - 〔信綱寺文書〕
 - 〔真田宝物館所蔵文書〕
 - 〔横田文書〕 真田宝物館寄託
 - 〔片岡文書〕 真田宝物館寄託
 - 〔長野県立歴史館所蔵文書〕
 - 〔池口文書〕 長野県立歴史館所蔵
 - 〔高坂文書〕 長野県立歴史館寄託
 - 〔丸山氏所蔵文書〕 長野県立歴史館寄託
 - 〔村石正行氏所蔵文書〕 長野県立歴史館寄託
- 当日は、願行寺ご住職様、真田宝物館山中さゆり氏・米沢愛氏、長野県立歴史博物館村石正行氏にはたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

(畑山周平・谷本隆之・村井祐樹)

6 三重県下中近世史料調査

二〇二四年二月一〇日～一四日、三重県下所在中・近世史料の調査・撮影を行った。今年度の調査地点は津市及び志摩市である。史料所蔵者各位及び調査に立ち会われた各位並びに御協力いただいた三重県総合博物館に厚く御礼を申し上げたい。以下に調査先及び調査・撮影史料の概要を掲げる。

石水博物館 津市

本所では一九九四年度・一九九五年度に調査・撮影を行っている。詳細については『東京大学史料編纂所報』第三〇号・第三四号「史料探訪」の「石水博物館」の項を参照されたい。今回の調査では、それ以後に収蔵された史料を調査・撮影するとともに、改竄の跡が見られる「祇園社旧蔵文書」を力

ラーによって再撮影した。なお、『三重県史 資料編 中世2』（三重県、二〇〇五年）参照。

石水博物館所蔵史料

一、建長元年（二月一六日）

・九月一八日

一、（年月日未詳）

一、八月二八日

一、『消息継合巻物』

・三日

・三月一六日

・八月二三日

・一八日

・三月一二日

・八日

・二三日

・二月二六日

・五月一日

・十一月一八日

・四月五日

・五月

・四日

・十一月二一日

・五月二二日

・即刻

・二月二日

・五月二七日

・一〇月六日

・閏月二〇日

・乃刻

・二六日

関東御教書

後伏見上皇院宣

三条西実隆消息

狩野永徳書状

近衛信尹消息

九条輔実消息

中院通茂消息

飛鳥井雅章消息

烏丸光広消息

烏丸光雄消息

風早実種消息

二楽軒宋世（飛鳥井雅康）消息（切続紙）

沢庵宗彭消息

江月宗玩消息

玉室宗珀消息

石川丈山消息

小堀宗甫消息

金森宗和消息

松花堂昭乗消息

法童坊孝以消息

中村久越消息

萩坊乗円消息

平野仲安消息

龍禪院寂源消息

藤木駿河守消息

本阿弥光徳消息

（掛幅装・堅紙）一通一軸

（掛幅装・堅紙）一通一軸

（堅折紙）一通

（掛幅装・続紙）一通一軸

（巻子装）一卷

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

・四日

・一二月晦日

・十一月六日

・立春

・四月二二日

・一月三日

・七月八日

合巻物」は目録による。

一、祇園社旧蔵文書

○詳細は『東京大学史料編纂所報』第三四号・『三重県史 資料編 中世2』参照。

片田自治会 志摩市

片田自治会 志摩市

折本装（もと巻子装）。五九九帖。承和九年（八四二）頃書写と推定される「池上内親王願経」をはじめとして、平安時代から室町時代の経本が集められている。延宝二年（一六七四）頃、円空が欠巻を補い、修理するとともに、概ね一〇巻ごとの見返しに墨絵を描いた。三重県指定有形文化財。前年度から継続して行ってきた全巻の書誌事項調査、表紙・巻末・巻首の撮影を完了した。稲城信子「大般若経と勧進―特に三重県・片田漁業組合所蔵大般若経を中心に―」（『千葉乗隆博士古稀記念 日本の社会と佛教』永田文昌堂、一九九〇年）・『三重県総合博物館第三二回企画展 三重の円空 図録』（三重県総合博物館、二〇二二年）参照。

立神区 志摩市

立神区 志摩市

折本装（もと巻子装）。六〇〇帖。仁安・承安・建久・元久・正応等の奥書が見られる。延宝二年、円空が欠巻を補い、修理するとともに、一〇〇巻を超える経巻の見返しに墨絵を描いた。三重県指定有形文化財。前年度から継続して行ってきた書誌事項調査、表紙・巻末・巻首の撮影は、「あべのハルカス美術館開館一〇周年記念 円空―旅して、彫って、祈って―」に出陳

本阿弥光悦消息

小嶋宗真消息

鳥飼宗慶消息

寺田無禅消息

加藤磐齋消息

観世黒雪消息

北向雲竹消息

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

（堅紙）一通

中の巻第五八四を除く五九九帖を終了した。巻第五八四については、今後何らかのかたちで補いたい。『三重県総合博物館第三二回企画展 三重の円空 図録』参照。

(山家浩樹・末柄豊・渡邊正男)

7 滋賀県下所在史料の調査・撮影

二〇二三年五月三〇～三一日、滋賀県近江八幡市および彦根市に出張し、所在中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

〔橋本文書〕

〔彦根藩井伊家文書(中世分)〕

当日は、近江八幡市教育委員会烏野茂治氏・同総合政策部永福采音氏、彦根城博物館竹内光久氏にはたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

(村井祐樹)

8 滋賀大学経済学部附属史料館における大嶋神社・奥津嶋神社文書の調査・撮影

二〇二四年三月に滋賀大学経済学部附属史料館において、同館寄託の大嶋神社・奥津嶋神社文書(全二二三点)の調査・撮影を実施した。収載文書の詳細については、同館編『大嶋神社・奥津嶋神社文書』(昭和六一年)を参照されたい。本調査・撮影は、共同利用・共同研究拠点の一般共同研究「近江国惣村文書を対象とした横断的原本研究の試み」(研究代表 宇佐見隆之・滋賀大学教授)による成果である。調査・撮影をご許可いただいた大嶋神社・奥津嶋神社ならびに、特段のご高配をいただいた滋賀大学経済学部附属史料館にあつく感謝申し上げたい。

(村井祐樹・谷昭佳・桑田恵里・井上聡)

9 京都大学附属図書館・総合博物館所蔵『薩戒記』の原本校正

二〇二三年九月五日・七日に京都大学附属図書館および総合博物館(京都市)において、大日本古記録『薩戒記 七』編纂のための原本校正を行った。

(遠藤珠紀)

10 青蓮院門跡吉水藏聖教調査撮影

京都府京都市青蓮院門跡に出張し、吉水藏聖教の調査ならびに写真撮影を行った。同聖教については、すでにマイクロフィルムにより大部分が撮影されているが、一部未撮影の部分等があり、また朱点その他の確認や永年保存・公開の観点からも、デジタルによる再撮影が必要となっていた。この間、同門跡による格段のご理解・ご配慮により本事業の開始に至った。本事業は悉皆撮影を目標に、継続的に実施の予定である。

なお本事業は、龍谷大学阿部泰郎特任教授・道元徹心教授他のご協力を得て開始した。

(第一回)二三年六月一五～一八日、第八函(七～一二号)～第一六函までを撮影した。

(菊地大樹・藤原重雄・小塩慶・林遼)

(第二回)二四年二月一〇～一四日、第一七函～第二六函までを撮影した。

(菊地大樹・藤原重雄・新井重行・小塩慶)

11 徳禅寺所蔵史料の調査・撮影・原本校正

二〇二四年二月一八日から二一日にかけて、京都府京都市の徳禅寺に出張し、同寺所蔵史料の調査・撮影を行うとともに、『大日本古文書徳禅寺文書』の原本校正を実施した。

調査にあたっては、御寺の手厚い御協力・御配慮を賜った。この場を借りて心から御礼を申し上げたい。

(谷昭佳・桑田恵里・小瀬玄士)

12 醍醐寺文書の原本校正

二〇二三年一月二七日より三〇日までの四日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、『大日本古文書 家わけ第十九 醍醐寺文書之十八』の出版準備のため、第二十五函の原本校正を行った。

(小瀬玄士・高橋慎一朗)

13 醍醐寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二三年八月二日より二五日までの五日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、継続事業として文書・聖教の原本調査および第四五四・四五五・四五七函のデジタル写真撮影を行った。

(谷昭佳・桑田恵里・小塩慶・海上貴彦・高橋慎一朗)

14 醍醐寺文書の原本校正

二〇二四年三月一日より一四日までの四日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、『大日本古文書 家わけ第十九 醍醐寺文書之十八』の出版準備のため、第二十六函の原本校正を行った。

(遠藤基郎・高橋慎一朗)

15 京都大学文学研究科図書館所蔵「明和四年東行之日記」の調査

二〇二三年十一月二八日・二九日に京都大学文学研究科図書館に出張し、『大日本近世史料 廣橋兼胤公武御用日記 一五』の編纂のため、「明和四年

東行之日記」の調査および原本校正を行った。

(松澤克行・荒木裕行)

16 公益財団法人陽明文庫所蔵『平記』『後法興院記』の原本調査

二〇二四年三月に、京都市右京区の公益財団法人陽明文庫において、同文庫所蔵の『知信記』天承二年春・夏・秋冬(第十三函十一・十三号)、『後法興院記』文正元年・応仁元年・同二年(七函一五・七)・『雜事要録』文明十年(一般文書目録二五七六九号)の原本調査を行った。

(尾上陽介・遠藤珠紀・井上聡)

17 陽明文庫所蔵「近衛文書」の調査・撮影

令和六年三月二日より一四日まで公益財団法人陽明文庫に出張し、同文庫が所蔵する「近衛文書」のうち、「公事儀式篇(1)」に分類される五〇八袋・五〇九袋の史料九三点を調査・撮影した。

(松澤克行・荒木裕行・山本一夫)

18 仁和寺所蔵史料(御経蔵)の調査・撮影

二〇二三年一月七日・九日および二〇二四年三月一日・一三日、総本山仁和寺(京都市右京区御室大内)を訪れ、同寺所蔵史料のうち御経蔵第百十三・百十五・百十六・百十九・百二十一・百二十四箱について調査を行い、デジタルカメラによる撮影を行った。

撮影目録については、箱単位での撮影途中であるため、撮影データの整理が終了した段階で次号以降に掲載する。

なお、本探訪には総本山仁和寺管財課学芸員朝川美幸氏にご高配を賜った。記して御礼申し上げる。

(岡本真・須田牧子・林晃弘・林遼・藤原重雄・川本慎自)

19 京都御所東山御文庫の調査

二〇二三年一〇月二八日・三〇日、十一月一日、京都御所に赴き、「天皇家・公家の「知」の体系としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクトの遂行、ならびに『大日本史料』二編・三編・七編・八編・九編の編纂・校正等のため、東山御文庫御物の調査を行った。主な調査史料は以下の通り。

勅封七三―二二二〇	続日本後紀卷第二十	一卷
勅封九五―一〇	神宮及諸社文書写	五冊
勅封一〇―一―一―二	西園寺実宗卿抄御拔書	一通
勅封一〇―一―一―四	後奈良天皇宸記	一卷
勅封一〇―一―一―五	後奈良天皇正親町天皇御記類其他	一通
勅封一〇―一―一―七―四	六十七ヶ条御覚書	一七通
勅封一〇―一―一―七―五	四十八ヶ条御覚書	二二通
勅封一〇―一―一―八	宸翰雑々	一三点
勅封一〇―一―一―一〇	女車乗御勘例	一通
勅封一〇―一―一―一―一	応永二十八年十二月禁裏御修法事	一卷
勅封一〇―一―三―三―三九	額写目録	一冊
勅封一〇―一―三―三―四二	立親王行啓並読書始之記	一冊
勅封一〇―一―三―三―四四	立后記	一冊
調査には六名の所員が参加した。		

(末柄豊・渡邊正男・藤原重雄・新井重行・小塩慶・海上貴彦)

20 東寺百合文書の原本調査

二〇二三年一〇月一日から一三日にかけて、京都府立京都学・歴史館(京都府京都市)において、『大日本古文書』東寺文書編纂のため、同館所蔵「東寺百合文書」ね函の文書の原本校正を行った。

(遠藤基郎・木下竜馬)

21 岩佐家文書の調査・撮影

二〇二三年一月三〇日、二月二日、および二〇二四年一月一九日、二日の二度にわたり京都市歴史資料館(京都市上京区)に出張し、同館に寄託されている岩佐家文書の調査・デジタル撮影を行った。本調査・撮影は、科学研究費基盤研究(A)「神社所蔵文書・社家文書の一体把握による中近世賀茂別雷神社の総合的研究」および本所拠点特定共同研究「賀茂別雷神社文書・社家文書の調査・研究」による研究の一環である。

撮影は、京都市歴史資料館が整理した分類目録のうち、X(中世文書)について行い、六三五点全点の撮影を終えた。撮影目録の作成を進め、本所データベース(図書閲覧室端末)で公開する画像検索の便宜に供するつもりである。調査・撮影にあたっては、ご所蔵者および京都市歴史資料館松中博氏のご高配に預かった。記して感謝申し上げます。

(金子拓・木下竜馬・谷本隆之)

22 賀茂別雷神社文書の調査・撮影

二〇二三年六月一日、一七日、および二〇二四年三月一日、一三日の二度にわたり賀茂別雷神社(京都市北区)に出張し、同社所蔵文書の調査・デジタル撮影を行った。近年の編纂所による撮影は、同神社のご協力を得て、二〇一〇年度より継続して行っている。本年度の調査・撮影は、科学研究費基盤研究(A)「神社所蔵文書・社家文書の一体把握による中近世賀茂別雷神社の総合的研究」および本所拠点特定共同研究「賀茂別雷神社文書・社家文書の調査・研究」による研究の一環である。六月の調査では、拠点特定共同研究の共同研究員高橋敏子氏のご助力を得た。

賀茂別雷神社文書については、一九九七年度、二〇〇二年度にかけて京都府教育委員会が、一九四五年(昭和二〇)以前の文書の網羅的調査を実施し、目録を刊行している(『京都府古文書調査報告書第十四集 賀茂別雷神社文書目録』京都府教育委員会 二〇〇三年三月)。今回撮影した史料は、

左記のとおり(番号は目録のもの)。

Ⅱ(土蔵)―A(祭祀・神事)―Ⅲ(御戸代能)―Ⅱ

Ⅱ―C(遷宮・造替)―Ⅲ〇四―Ⅲ三〇

Ⅱ―D(撰社・末社)―Ⅰ(貫布祢)―Ⅰ―Ⅲ三〇―Ⅱ―D―Ⅲ(寺庵)―

Ⅰ―Ⅲ三

(石津裕之・遠藤珠紀・遠藤基郎・金子拓・高山さやか・谷本隆之)

23 東福寺栗棘庵所蔵「聖一国師印信」調査撮影

二三年七月三〇―八月二日、京都府京都市京都国立博物館に出張し、東福寺栗棘庵所蔵「聖一国師印信」の調査ならびに写真撮影を行った。従来から知られていた印信三巻に加え、同史料に付属する「心生滅真如両門図」の調査撮影も実施した。

(菊地大樹・高山さやか・桑田恵里)

24 聖護院文書の調査撮影

二〇二三年四月二四日、京都市の聖護院門跡に出張し、所蔵文書の調査撮影を行った。対象は、指図類を収める「一二箱のほぼ全点(一二一箱三三三号〔江戸絵図〕は大型により撮影せず)」と、若干の関係史料である。聖護院門跡教務主事の佐藤浄雲氏、富山大学講師の長村祥知氏には大変お世話になった。記して謝意を表す。

(木下竜馬・藤原重雄)

25 春日大社所蔵史料の調査

二〇二三年九月一九―二一日、春日大社に出張し、春日大社所蔵史料を調査・撮影した。同社国宝殿の千鳥祐兼氏・松村和歌子氏・渡邊亜祐香氏にはお世話になった。記して謝意を表す。以下、デジタル撮影した史料の目録を掲げる(『春日神社記録目録』同社務所、一九二九年、八二―八五頁)。神事

日記の書誌については、全体の目録を作成中で、そちらに譲る。なお、別途継続調査していた「春日大社文書」未成巻分等が、二〇二四年三月に重要文化財に追加指定された。

〔日記(書庫)〕

(日一八七) 宝永二年日記(時慶)

(日一九一) 正徳三癸巳年日記(延英)

(日一九二) 正徳三癸巳年日並延英卿記抜書

(日一九三) 正徳四甲午年日記(延英)

(日一九五) 正徳五乙未年日記(延英)

(日一九六) 享保二丁酉年日記(延英)

(日一九九) 享保三戊戌年日記(延英)

(日二〇二) 享保四己亥年日記(延晴)

(日二〇五) 享保五庚子年日記(延晴)

(日二〇六) 享保六辛丑年日記(延晴)

(日二〇七) 享保七壬寅年日記(延晴)

(日二〇八) 享保八癸卯年日記(延晴)

(日二〇九) 享保八年日記(延致)

(日二一〇) 享保八癸卯年十二月十六日より旧記抜書(祐寛)

(日二一一) 享保九年甲辰日記(延晴)

(日二一二) 享保九甲辰年日並記(祐寛)

(日二一三) 享保九甲辰年日記(延致)

(日二一四) 享保十年乙巳日記(延致)

(日二一五) 享保十乙巳年日記(延晴)

(日二一六) 享保乙巳年日並記(祐寛)

(日二一七) 享保十一丙午年日記(延致)

(日二一八) 享保十一丙午年日並記(祐寛)

(日二一九) 享保十一丙午年日記(延晴)

(日二二〇) 享保十二丁未年日記(延致)

(日二二一甲) 享保十二丁未歳日並記(祐寛)

(日二二二乙) 享保十二丁未年日記(延晴)

※開披不能箇所多。

※大部分開披不能。

※一部開披不能。

※開披不能箇所多。

※開披不能箇所多。

※一部開披不能。

※開披不能。

- (日二二一甲) 享保十三戊申年日記(延致) ※開披不能箇所多。
(日二二二乙) 享保十三戊申年日記(延晴) ※開披不能箇所多。
(日二二三) 享保十四庚酉年日記(延晴) ※開披不能箇所多。
(日二四甲) 享保十四年日次之記(祐寛) ※一部開披不能。
(日二四乙) 享保十四年日並記(祐寛)
(日二五) 享保十四年日記(祐処)
(日二六) 享保十五庚戌年日記(延晴) ※虫損大。
(日二七) 享保十五庚戌年日記(延致)
(日二八) 享保十五年戊戌月日次記下書(祐寛) ※開披不能箇所多。
(日二九) 享保十六辛亥年日記(延晴) ※開披不能箇所多。
(日三〇) 享保十六辛亥年日記(延致) ※一部開披不能。
(日三一) 享保十六年亥日次記下書(祐寛) ※一部開披不能。虫損大。
(日三二) 享保十六年(日記)(前欠)(延晴)
(日三三) 享保十六年(日記)(前欠)(延晴)

(遠藤基郎・藤原重雄)

26 薬師寺所蔵史料の調査

二〇二三年七月一〇～一四日に奈良県奈良市の薬師寺に出張し、奈良文化財研究所と共同で同寺所蔵史料の調査(調書作成・原本校正および撮影)を行った。今年度の撮影分は、第二三函(一～二六号統)である。

(海上貴彦・及川亘・菊地大樹・小瀬玄士・林晃弘・前川祐一郎)

27 真言律宗総本山西大寺所蔵史料の調査・原本校正

二〇二三年一〇月一六日から二〇日にかけて、奈良県奈良市の真言律宗総本山西大寺に出張し、同寺所蔵史料の調査・原本校正を実施した。

前年に引き続き次期大日本古文書刊行に向け、一〇一函～一〇六函の原本校正を行なった。

調査にあたっては、同寺清浄院御住職佐伯俊源先生の手厚い御協力・御配

慮を賜った。この場を借りて心から御礼を申し上げたい。

(末柄豊・高橋慎一郎・西田友広・小瀬玄士)

28 正倉院文書調査

二〇二三年度の正倉院文書調査は、一月六日～一〇日の五日間、宮内庁正倉院事務所(奈良市雑司町)に出張し、調査室において原本調査を実施した。本年は、『正倉院文書目録』一〇・続々修五(二〇二七年三月刊行)に収録予定の第一七帙～第一八帙(合計一五巻)の調査を行った。

正倉院文書閲覧の許可を与えられ、調査・研究に関して便宜をお図りいただいた宮内庁及び正倉院事務所に厚く謝意を表する。

(山口英男・稲田奈津子・新井重行・小塩慶)

29 東大寺寺文書の原本調査

二〇二四年二月一三日より一七日までの五日間、奈良市東大寺に出張し、『大日本古文書 家わけ第十八 東大寺文書之二十六』の出版準備のため、第一部二十四架(雜莊)・二十五架(雜)などの原本調査を行った。

(遠藤基郎・木下竜馬・高橋慎一郎)

30 三箇家文書・大日寺旧蔵文書調査撮影

二四年三月一～三日、奈良県五條市五條文化博物館に出張し、三箇家文書(個人蔵)・大日寺旧蔵文書(生蓮寺所蔵)の調査ならびに写真撮影を行った。

なお、調査撮影に当たっては、下村周太郎氏(早稲田大学)・李淳楠氏(東京大学大学院生)のご協力を得た。また、山崎竜洋氏(五條市教育委員会)のご高配を賜った。記して感謝したい。

(菊地大樹・木下竜馬)

31 武田科学振興財団所蔵『実躬卿記』自筆本による原本校正

二四年三月一〇～一四日、大阪府大阪市武田科学振興財団杏雨書屋において、『実躬卿記』自筆本により、大日本古記録『実躬卿記』の編纂に必要な原本校正を行った。

(菊地大樹・遠藤珠紀)

32 堺市・大阪市所在史料の調査・撮影

二〇一三年一〇月二～四日、大阪府堺市および大阪市に出張し、所在中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

- 〔法道寺文書〕
 - 〔堺市博物館所蔵文書〕
 - 〔今井文書〕 堺市博物館寄託
 - 〔赤木氏所蔵文書〕 堺市博物館寄託
 - 〔中村結鎮御頭次第〕 堺市博物館寄託
 - 〔三刀屋文書〕 大阪歴史博物館所蔵
 - 〔久米田寺文書〕 大阪歴史博物館所蔵
- 当日は、法道寺ご住職様およびご家族、堺市博物館渋谷一成氏、大阪歴史博物館谷口正樹氏にはたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

(西田友広・小瀬玄士・村井祐樹)

33 岡山大学附属図書館池田家文庫および鳥取県立博物館所蔵史料の調査・撮影

二〇一三年一〇月二日～五日にかけて岡山市・鳥取市に出張し、『大日本維新史料 類纂之部 松平昭休往復書翰留 一』編纂のため岡山大学附属図書館池田家文庫・岡山県立記録資料館を調査し、また科学研究費基盤(B)「日

本近世史科学の再構築―基幹史料集の多角的利用環境形成と社会連携を通じて」(二二H〇〇六九二)研究活動の一環として、鳥取県立博物館所蔵史料の調査・撮影を行った。

〔岡山大学附属図書館池田家文庫の調査・撮影〕

岡山大学附属図書館池田家文庫の調査では、池田家文庫藩政資料のマイクロ化事業の対象からは外されている「和書」区分の資料に重点をおいた。主な調査史料は次の通りである。

- | | | |
|-----------------|----------------------------|----|
| 和書210.08-14 | 雑書 | 四冊 |
| 和書210.08-26 | 〔書状集〕 | 五冊 |
| 和書210.08-40-1 | 文久年間国事建白 | 一冊 |
| 和書210.08-40-2 | 文久年間国事文通其外雑記 | 一冊 |
| 和書210.5-4 | 安政六末年一件書 | 二冊 |
| 和書P0-15 | 〔雑著〕 | 一冊 |
| 和書P3-15 | 忍家軍法規則 | 一冊 |
| 和書P3-16 | 忍家軍法規則 | 一冊 |
| 和書P3-17 | 忍家備立之図 | 一冊 |
| 和書P3-119 | 万治二年御軍法六十二ヶ条 | 一冊 |
| 和書P21-34 | 忍家家臣住口家法記 | 一冊 |
| 和書P21-35 | 忍家来住口書付 | 一冊 |
| 和書P21-43 | 御手伝御用覚書 | 一冊 |
| 和書P21-214 | 播州姫路諸士勤書 | 一冊 |
| 和書P21-221 | 〔未八月廿七日水戸家々老安島帯刀等処罰に関する書付〕 | 一冊 |
| 和書P21-225 | 姫路城下取調書 | 一冊 |
| 和書P21-249 | 松平下総守家浅草御蔵火消被仰付候節之書 | 一冊 |
| 和書P21-251 | 万延年開書 | 一冊 |
| 和書P28-24 | 奥平家伝記 | 一冊 |
| 和書P28-133 | 松平下総守忠国家記 | 一冊 |
| 和書P28-134 | 松平末葉系図 | 一冊 |
| 国事維新(雑)S6-728-② | 〔忍藩漫録〕 | 一冊 |

国事維新 (雑) S6-728-(3)	〔水戸藩漫録〕	一冊・断簡
国事維新 (雑) S6-661	〔御漫録〕	一冊
国事維新 (雑) S6-666	〔御漫録〕	一冊
国事維新 (雑) S6-670	〔御漫録〕	一冊
藩侯 (交際) C8-355	〔藩侯書状〕	一〇点
藩侯 (交際) C8-357	〔御書翰〕	五八点
藩侯 (交際) C8-363	民部太輔様相模守様よりの御書	四点
藩侯 (交際) C8-370	〔慶徳侯書状〕	一〇点・断簡
国事維新 (国事周旋) SI-85	因州侯より書翰	二六点
国事維新 (国事周旋) SI-90	〔因幡鳥取藩・備前岡山藩往復書状類〕	五四点
国事維新 (国事周旋) SI-91	因州慶徳侯より書翰	二四点
国事維新 (国事周旋) SI-93	〔阿波徳島藩・備前岡山藩往復書状集〕	二五五点
国事維新 (国事周旋) SI-271	〔国事周旋ニ付書状類〕	五四点

熟覧の上、重要なものを抽出し撮影した。撮影画像は岡山大学附属図書館の許可を得てH-CAT Plusにて閲覧室限定公開している。

池田家文庫は岡山藩主池田家に伝来した藩政文書・家政文書であるが、その中には藩主個人のアーカイブズと呼ぶべき史料群が伝来している。とりわけ澤村怜薫氏が指摘するように「忍藩主松平下総守家の藩政と家意識」〔関東近世史研究〕八四号、二〇一九年)、幕末に水戸徳川家から養子に入った池田茂政(松平昭休)に関しては、従前忍藩世子松平忠矩であった時代から彼の手元で作成・筆写された史料が、藩という枠組みを超えて池田家を持ち込まれている。今回は澤村氏からの情報提供を受け、「昭休附」史料群の確認を試みた。以下、注目すべき史料を紹介する。

S6-728-(2)〔「忍藩漫録」〕は忍藩政の記録(家臣・財務・儀礼等)や忠矩・忠国に関わる書状等を筆写した小横帳で、嘉永・安政年間に忠矩(昭休)が家督の継承を意識して作成したもの指摘されている。同③〔「水戸藩漫録」〕は水戸藩に関する同じ形式の小横帳であり、廃嫡後に昭休が作成した可能性が高い。同じく忠矩作成と指摘される和書D8-133〔「松平下総守忠国家記」〕と同じ筆跡・同じ判型の帳である点が興味深い。同じく忍藩に関する記録の写本としては万治年間の軍法や忍藩士の書上、松平下総守家の担った役に関

するものが「和書」区分内に複数残されている。

和書21008-26〔「書状集」〕五冊はおおむね文久三年～明治元年にかけての茂政宛書状・岡山藩士建白などが写し留められた堅帳で、冊ごとに大きく性格が異なる。このうち第四冊は安政六年～文久元年にかけて、すなわち水戸藩時代の昭休宛に鳥取藩主池田慶徳ら兄弟姉妹などから送られた書状の書留であり、「松平昭休往復書翰留」と一部共通する書状が収録されている。

忍藩～水戸藩時代のものと考えられる忠矩／昭休宛の書状原本はSI-85・90・93・271・C8-355・357・363・370にも確認された。その一部は「松平昭休往復書翰留」所収書状と同文であり、原本と考えられる。C8-355は書状原本を紙継にし複数の卷子にまとめたものであり、袋書には「明治廿四年七月 御来岡之際御調」とある。忠矩の手元で忍藩時代以降保管されて池田家へ持ちこまれ、明治期に自ら再整理を行ったものであろうか。なお、以上のうち単位「SI」の各書状は小野正雄氏らが科研費「幕藩制国家の解体と長州戦争」(一般研究C)の一環として一九八三・八四年に調査・撮影を行っているが〔「所報」一九・二五号参照〕、今回「松平昭休往復書翰留」編纂に際して必要分を改めて確認したものである。

以上のほか、幕末期の風説留・忍藩関係の版本類を調査・撮影した。

岡山大学附属図書館での調査に続き、杉本が岡山県立記録資料館にて池田茂政関係史料の調査(森下家文書・浅田家文書・武南家文書、池田茂政側近関係調査)を、箱石・菊地が鳥取県立博物館での調査を行った。

〔鳥取県立博物館所蔵史料の調査・撮影〕

鳥取県立博物館では、同館所蔵堀文庫および山田家資料の調査・撮影を行った。堀文庫は鳥取藩池田家の儒者を勤めた堀家に残された史料群であり、三代庄次郎(敦斎)が池田慶徳による藩政改革で活躍したほか、叔母にあたる堀孝は谷河・尾嶋などの名前で池田家に女中として奉仕した(『資料調査報告書第三集 堀文庫』鳥取県立博物館、一九七六年。以下史料番号は同書による)。山田家資料は小姓・右筆などを務めた鳥取藩士山田家に残された史料群であり、四代頼実も慶徳の小姓となっている(『資料調査報告書第二十集 旧鳥取藩士山田家資料』鳥取県立博物館、一九九五年。以下史料番号は同書による)。以下、主要なものを掲げる。

○堀文庫

5-6-1-32~38	堀庄次郎書状	七通
5-6-2-23~26・7-6-1-1~10	谷河（堀孝）書状	一七通
5-1-2	堀庄次郎年譜	一冊
5-2-1-14~16	堀熙明（敦斎）日記	一三、一五
7-1-1	尾嶋書上	一冊
7-1-2	堀谷河君略歴	一冊
7-1-3	谷河君形見分配帳	一冊
8-20	鳥取池田藩諸臣御礼席帳	一冊
○山田家資料		
78	御礼席順書	一冊

83~87 公私日記 安政三年~文久二年 五冊

熟覧の上、重要なものを抽出し撮影した。撮影画像は鳥取県立博物館の許可を得てH-CAT Plusにて閲覧室限定公開している。

第一に、安政~文久期にかけての池田慶徳の政治行動を把握することを目的に、両史料群に含まれる日記類を確認し、研究資源化のため一部を撮影した。『贈従一位池田慶徳公御伝記』（鳥取県立博物館、一九八七~八九年）を補うものとして意義があるだろう。

第二に、「表」における藩主の行動と表裏をなす「奥」における女中らの藩際社交関係に着目し、堀孝（谷河、尾嶋）書状や関係史料の調査を行った。堀孝が没した際の「し」の「谷河君形見分配帳」には鳥取藩池田家奥向以外にも、かつて属した忍藩をはじめとする諸藩の元女中や、鳥取藩邸出入りの人物などの名前がみられ、「奥」における人的関係の広がりを見ることができ。

以上、閲覧・撮影にあたっては岡山大学附属図書館学術情報サービス課の久磨由美子氏はじめ調査相談グループの皆様、岡山県立記録資料館学芸員山下香織氏・同近藤萌美氏、鳥取県立博物館学芸員人文担当学芸員来見田博基氏に多大なるご協力を賜った。また澤村怜薫氏・東野将伸氏・上村和史氏・世川祐多氏には池田家文庫史料に関して多くのご教示を賜った。記して御礼申し上げます。

（杉本史子・箱石大・菊地智博）

34 山口県文書館所蔵毛利家文庫史料の調査・原本校正

二〇二四年三月一二日~一四日、山口県文書館に出張し、同館所蔵毛利家文庫史料の調査・原本校正を行った。主に調査した史料は、毛利家文庫三二部寄九「諸記録綴込」二八の九~二四（文久元年四月~十月分）である。調査に当たっては、山口県文書館の職員の皆様に大変お世話になった。この場を借りて厚く御礼を申し上げる。

（小野将・立石了）

35 萩原寺所蔵地藏院聖教および萩原寺文書の調査・撮影

二〇二三年一二月七日から一日まで、巨礪山地蔵院萩原寺（香川県観音寺市大野原町萩原）に出張し、同寺所蔵地藏院聖教および萩原寺文書について調査・撮影をおこなった。本調査は昨年度まで三年間休止したが、一九八八年度より継続するものであり、今回は四〇回目にあたる。

本年度は、近世聖教についての調査採取を完了させるとともに、近世文書のうち主に本末関係と内容とする袋綴冊子四九点、および前回見出せなかった聖教一点についてデジタル撮影をおこなった（あわせて約二二〇〇齣）。

なお、今回の調査には、本所元教員厚谷和雄氏・香川大学教育学部教授守田逸人氏にもご参加いただいた。貴重な所蔵史料の調査を許可された萩原寺住職秋山行徳氏にあらためて謝意を表するものである。

（井上聡・遠藤珠紀・末柄豊・畑山周平・山口英男）

36 高知県高知城歴史博物館および高知県立歴史民俗資料館における中世史料の調査・撮影

二〇二三年九月に、高知県立歴史民俗資料館および高知県高知城歴史博物館

館において、中世文書の調査・撮影を行った。各館における調査史料の詳細は左のとおりである。

○高知県高知城歴史博物館寄託史料

*岡村家文書

文禄三年十月十五日 坪付

文禄三年十月二十三日 坪付

文禄三年十二月二十日 下地渡状

文禄五年八月十四日 坪付

慶長二年二月十三日 坪付

慶長四年三月二十二日 坪付

慶長六年八月十九日 給田安堵状

慶長六年九月十九日 坪付

*長澤家史料

吉田系図

*長宗我部家史料

贈位記（昭和三年十一月十日）

位記辞令（昭和三年十一月十日）

策命文（昭和四年一月二十八日）

書簡（寺石正路、十二月三日）

書簡（寺石正路、昭和三年十二月十九日）

寺石正路和歌 二点

差出（嶋与介、貞享五年正月二十七日）

島弥左衛門雑録

奉願（長宗我部弥九郎、午閏十月）

覚（嶋与助）

水野流 弥和羅目録（慶安三年五月一日）

水野流 剣術之弥和羅（慶安三年五月一日）

法螺之事（寛文十年二月三日）

無隻流軍用馬序（寛文六年四月五日）

年代記（過去帳）

長宗我部氏系図

*介良今井家史料

護符

今井五郎兵衛書状（但しコピー）

覚（享保十一年六月十六日）（但しコピー）

*雪隠寺史料

長宗我部元親法要記録（明治三十一年五月秦社祭典会計帳・明和八年春祭

神礼配分帳・嘉永元年四月元親公二百五旬年忌控）

*乾家史料

正月二十五日 秀吉朱印状

○同館所蔵史料

*山内家資料

蠹簡集 九冊

蠹簡集拾遺 一冊

○高知県立歴史民俗資料館寄託史料

*宮地家文書

天正十七年三月日 宮地五郎左衛門宛坪付状控

文禄四年四月十三日 長宗我部家奉行人連署坪付状

文禄四年九月十七日 久万次郎兵衛等連署給地坪付状

*明神家文書

八月二十一日 長宗我部元親判物

十二月十日 長宗我部盛親判物

十二月十日 豊永豊五郎連署状

*円光寺文書

天正五年十二月七日 長宗我部元親打渡坪付

文禄三年十月二十一日 長宗我部盛親打渡坪付

○同館所蔵史料

天文十六年卯月日 長宗我部国親判物（秦親公氏コレクシヨ）

十月三日 長宗我部信親判物写（秦親公氏コレクシヨ）

慶長三年七月四日 長宗我部元親・同盛親連署状写（秦親公氏コレクシヨ）

天正十一年十二月二十二日 長宗我部元親・同信親連署状（中内家文書）

文祿五年十一月九日 長宗我部盛親判物写（吉村淑甫コレクシヨン）

慶長三年十一月十七日 森弥五郎書状（一圓元雅コレクシヨン）

文祿四年五月八日 長宗我部盛親判物（一圓元雅コレクシヨン）

五月十六日 長宗我部盛親判物（一圓元雅コレクシヨン）

寛永九年五月六日 先弥次兵衛殿一代手柄書付写（入交家文書）

十月二十八日 長宗我部元親判物写

文安元年二月十七日 畠山持国奉書

戦国大名書狀断簡集

調査・撮影にあたっては史料所蔵者各位にご許可を賜った。また両館には特別の便宜をお図りいただいた。記して謝意を申し上げたい。なお本調査は、受託研究「高知県域に関する古代・中世史料の調査・収集と分析研究」によるもので、高知県史古代・中世部会と共同で実施したところである。

（岡本真・井上聡）

37 福岡県柳川市・天叟寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二三年一〇月一八日、福岡県柳川市に出張し、天叟寺所蔵史料の調査・撮影を行った。撮影史料は以下の通り。

〔高橋紹運画像〕○天叟寺所蔵

寛永二十一年初夏吉祥日

高橋紹運画像

また、一〇月一九日、同市の柳川古文書館に赴き、『大日本史料 第十二編』の編纂に関連する諸史料等の調査を行った。

調査にあたっては、天叟寺御住職、柳川古文書館の江島香氏・白石直樹氏・中川晃一氏に大変お世話になった。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

（谷昭佳・桑田恵里・畑山周平）

38 大分県中津市歴史博物館における中世史料の調査・撮影

二〇二四年一月、大分県中津市歴史博物館において、同館寄託史料の調査・撮影を行った。その詳細は左の通りである。

○湯屋文書

豊前国下毛郡湯屋名（中津市湯屋）の湯谷家に伝来した文書群。湯屋氏は、宇佐神人としての身分を帯びて同地を支配したほか、下宮番長であった永弘氏の縁に連なったことから、同氏所領の豊後国田染庄関係史料なども伝えている。中近世文書は一卷から十三巻に編成されて伝来するが、この他に捲りの状態であった文書群が、近年新たに二巻に成巻されて加わっている。今回の調査に当たっては、中世文書を含む巻を中心に選び撮影を行った。撮影対象資料については、『大分県立博物館報告書第十八集 沖代条里の調査 資料編』（令和二年、大分県立歴史博物館発行）の「Ⅱ 歴史資料（3）湯屋文書」を参照のこと。なお寄託以前の昭和五九年に採訪撮影した成果は、写真帳（架番号六二七一・九一―三七）にまとめられているが、これには寄託外の近世記録類も含まれている。

○古武文書

耶馬溪口之林（中津市耶馬溪町）の庄屋であった古武氏に伝来する文書。

十一月十六日付「羽張秀吉書状」の一通。『大分県史料（8） 第二部 宇佐・下毛諸家文書』に収載。

○野中文書

宇都宮氏の庶流で、豊前国下毛郡野仲郷の地頭であった野仲氏が伝えた文書群。七通の中世文書と系図が伝来する。文書については、すべて『大分県史料（8） 第二部 宇佐・下毛諸家文書』に収載されている。系図は本所架蔵謄写本『野中系図』（架番号二〇七五―三三〇）に同じ。なお本文書を納める文書箱も同じく寄託されているが、箱書の記載などからみて、明治三二年（一八八九）に本文書の影写本（架番号三〇七一・九五―二九）を作成するため、東京大学に発送する際に作成されたものと考えられる。

○広津文書

上毛郡広津(福岡県吉富町広津)に住していた田部姓広津氏が伝えた文書。十一月七日付「吉川元春・小早川隆景連署書状」(広津若狭守充)、三月十三日付山田隆長書状(広津若狭守充)の二通からなる。竹内理三編『豊前国古文書』(四一七一・九一一三三)に収載された広津文書三通のうち二通に相当する。

○未久文書

上毛郡成恒名(福岡県上毛町成恒)を拠点とした豊前宇都宮氏の庶流末久氏に伝来した文書群。左に掲げる三一通からなる。竹内理三編『豊前国古文書』(四一七一・九一一三三)にも収録されているが一部に異同がある。

- ①建保五年正月二十二日付「大宰府守護所下文案」(鎌倉遺文二二八五号)
- ②(正嘉二年)四月二十四日付「少貳資能施行状案」(鎌倉遺文八二二四号)
- ③正嘉二年六月十七日付「山田親連請文」(鎌倉遺文八二六〇号)
- ④弘長二年十一月日付「蓮上申状案」(鎌倉遺文八九〇〇号)
- ⑤建治三年十一月日付「豊前吉富地頭代公信重申状案」(鎌倉遺文一二九二七号)
- ⑥建治三年十一月十五日付「六波羅御教書案」(鎌倉遺文一二九〇四号)
- ⑦寛元元年九月二十一日付「將軍(藤原頼経)家政所下文案」(鎌倉遺文六二二七号)
- ⑧正安二年閏七月十二日付「もりさぬ石築地用途請取案」(鎌倉遺文二〇四一八号)
- ⑨(乾元二年)九月十七日付「舜種覆勘状案」(鎌倉遺文二一六〇一号)
- ⑩嘉元二年三月十七日付「沙弥某召入預状」
- ⑪(貞永元年)閏九月十七日付「少貳資能書状案」(鎌倉遺文四三八七号)
- ⑫貞永元年閏九月九日付「大宰府守護所下文案」(鎌倉遺文四三八五号)
- ⑬(正安元年)十一月一日付「義兼覆勘状案」(鎌倉遺文二〇二〇四号)
- ⑭(正安二年)閏七月七日「直兼書下案」(鎌倉遺文二〇五〇八号)
- ⑮(正安二年)十月十日付「直兼書下案」(鎌倉遺文二〇六〇三号)
- ⑯(正安二年)十月二十日付「高実書下案」(鎌倉遺文二〇六一六号)
- ⑰(弘安三年)四月晦日付「山田政範請文」(鎌倉遺文一三九四五号)

- ⑱(弘安三年)四月二十三日付「西郷信定和与状」(鎌倉遺文一三九三三三三)

- ⑲(弘安三年カ)「山田政範和与状案(後欠)」(鎌倉遺文一三九三三四号)

- ⑳(正嘉二年カ)五月三日付「少貳資能書状案」(鎌倉遺文八二五四号)

- ㉑正嘉二年二月十六日付「関東御教書案」(鎌倉遺文八一九〇号)

- ㉒元弘三年七月十三日付「成恒政能妻妙阿代家綱軍忠状案」

- ㉓同右

- ㉔元弘三年九月三日付「成恒政能妻妙阿代家綱軍忠状案」

- ㉕文安六年七月二十五日付「つとめ原田地成物書上」

- ㉖天文六年四月五日付「大内義興領知宛行状」(戦国遺文大内氏編二九三八号)

- ㉗十月二十九日付「龍崎隆輔・仁保隆慰連署書状」

- ㉘天文六年五月十三日付「飯田秀興遵行状」(戦国遺文大内氏編二九四七号)

- ㉙弘治三年六月二十三日付「田原親宏官途状」

- ㉚天正十年五月二十一日付「高橋元種袖判所領安堵状」

- ㉛成恒氏系図

以上五家の文書群については、調査・撮影にあたり各ご所蔵者よりご許可をいただいた。また中津市歴史博物館には格別の便宜を与えられた。記して謝意を表す次第である。

(尾上陽介・井上聡)

39 西山寺文書の調査・撮影

二〇二三年六月二五日～二七日、鶴翼山西山寺および長崎県対馬歴史研究センター(長崎県対馬市)を訪れ、同センター寄託の西山寺文書(二二一点)の調査およびデジタル撮影を行った。

本調査は拠点一般共同研究「対馬西山寺関係文書の総合的研究」による調査に帯同して行ったものであり、共同研究員の顧明源・伊藤幸司・程永超・山口華代の各氏の参加を得た。

調査の実施にあたっては、西山寺住職田中節竜氏のご理解を賜り、対馬歴史研究センターにおける調査にもご同席いただいた。また山口華代氏をはじめとする同センターの各位にもご高配をいただいた。記して感謝申し上げます。

40 公益財団法人永青文庫所蔵・熊本大学寄託「細川家史料」の調査・撮影

(岡本真・須田牧子・川本慎自)

二〇二四年二月二十九日・三月一日の両日、熊本大学附属図書館に出張し、公益財団法人永青文庫所蔵・熊本大学寄託「細川家史料」の調査・撮影を行った。対象史料の通番号(熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『熊本大学寄託永青文庫資料総目録』所載)等を次に記す。

調査撮影分

19217神雑.74.1	(寛永十一年) 二月十九日	寺沢兵庫頭書状写	一通
19218神雑.74.2	(寛永十一年) 壬七月朔日	本多甲斐守書状写	一通
19219神雑.74.3	(寛永十一年) 壬七月二日	柳生但馬守書状	一通
19220神雑.74.4	(寛永十一年) 壬七月二日	細川忠利書状写	一通
19221神雑.74.5	(寛永十一年) 七月二日	本多甲斐守書状	一通
19222神雑.74.6	(寛永十一年) 壬七月二日	細川忠利書状写	一通
19597神雑.117.6	(寛永八年) 壬十月廿日	一昨日之様子宮内殿へ一言不申入候	一通
19628神雑.121.1	(寛永十年) 卯月九日	伊丹播磨守書状	一通
19629神雑.121.2	(近世) 九月十七日	伺書	一通
19630神雑.121.3	(寛永十四年) 五月四日	堀式部少輔書状	一通
19631神雑.121.4	(寛永十年) 三月十五日	伊丹播磨守書状	一通
19721神雑.135.1.1	(延宝四年) 十月廿三日	達書	一通
19722神雑.135.1.2	(寛永十年) 三月十九日	曾我又左衛門書状	一通
19723神雑.135.1.3	(寛永十五年) 六月十三日	町人内記書状	一通
19724神雑.135.1.4	(慶安四年) 正月廿一日	書状	一通
19849神雑.160.1	(寛永十一年) 十一月廿二日	稲葉内記書状	一通
19850神雑.160.2	(寛永十二年) 十二月五日	有馬直純書状	一通
19851神雑.160.3	寛文四年正月廿八日	口上書之事	一通
19852神雑.160.4	(近世初期) 正月四日	書状追而書	一通

19853神雑.160.5 寛永十五年九月十三日 覚 一通

閲覧調査に際し公益財団法人永青文庫および熊本大学附属図書館各位のご配慮を得た。記して感謝申し上げる。

(立石了・林晃弘・山口和夫)